

### 新刊案内

#### ◆三上一夫著 公武合体論の研究

—越前藩幕末維新史分析—

(御茶の水書房刊、A5判)

定価三、八〇〇円)

幕末維新期の変革過程の全体像を的確に把握するため、公武合体派《公議政体派》の果たした役割に新たな歴史的評価を提起する。

第一篇 藩政改革路線とその影響

第一章 藩財政窮迫化の実相 第二章

「雄藩」推転への胎動 第三章 軍制

改革と強兵策の展開 第四章 「重商主

義」的藩論の形成 第五章 「民富論」

的富国策の推進 第六章 統一国家論

(具体化の画策)

第二篇 公武合体路線とその展開

第一章 文久幕政改革の推進 第二

章 張紙、檄文等にもみる尊攘派の動向

第三章 越前藩の挙藩上洛の計画 第

四章 第二次征長への反応、その動向

第五章 維新への公議政体論的対応、

その挫折

(三上記)